

第20回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ
安全に寄与する組織文化の核心とは
ーリーダーシップ・マネジメントの視点からー

- 日時： 2019年6月21日（金）13：00～17：30
場所： 筑波大学東京キャンパス文京校舎 120 講義室
http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html
主催： 日本原子力学会 社会・環境部会
日本原子力学会 ヒューマン・マシン・システム研究部会
日本品質管理学会
日本人間工学会 安全人間工学委員会
筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻
後援： 日本電気協会、日本信頼性学会（依頼中）
参加費： 2,000円（当日配付資料代+後日作成の報告書(PDF)代）
定員： 100名
申込先： 以下のURLより、6月14日（金）17：00までにお申込ください。
<http://www.jsqc.org/q/news/2019/06/21/order135/order.html>
連絡先： （一社）日本品質管理学会 事務局
住所：〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1 日本科学技術連盟内
TEL：03-5378-1506 FAX：03-5378-1507 E-mail:apply@jsqc.org

【開催趣旨】

エネルギー、運輸、医療などの社会基盤分野において安全・安心を確保するためには、ハードの健全性だけでなく、ヒューマンファクターや組織のマネジメントなどのソフト面にも目を配ることが必要である。しかし、多くの研究が行われてきたにもかかわらず、ソフト面に起因する事故・トラブルが少なくない。本シンポジウムは、安全・安心のための管理技術と社会環境に関する研究の現状と課題、事業者と規制当局の関連する事項の実施状況と課題などを持ち寄り、関係者で認識を共有した上で、行うべき研究の課題や方向性、事業者や規制当局が実施すべき事項などを充実するための手がかりを得たいという思いで、ヒューマンファクター、品質マネジメント、社会技術の3つの学問分野の専門家が集まり、平成19年3月以来継続的に開催してきた。

20回目となる今回は、「安全に寄与する組織文化の核心とは～リーダーシップ・マネジメントの視点から」をテーマに取り上げる。事故・トラブルの発生に組織のありようすなわち組織文化がさまざまな経路でシステム的に影響することについては、近時国際的な理解が進んできている。一方、日本で従来から行われてきている安全文化醸成の実務は、こうした観点の不足にして起因してその有効性に限界があり、社会に大きな影響を与える事故・トラブルの発生につながったり、類似の原因による事故・トラブルを繰り返したりして、社会の安心や信頼を損なう結果につながっているとの指摘が見られる。現在、日本の原子力分野ではROPをベースとした新検査制度の導入に伴い、IAEAの基準であるGSR Part2が反映され、安全に寄与する組織文化を醸成するリーダーシップが求められている。そこで、本ワークショップでは、規制組織も含む異なった領域の実務家・専門家からの事例発表をいただいた上でパネルディスカッションを行い、システム的な視点を踏まえ、安全に寄与する組織文化を醸成するリーダーシップとそのアセスメントのあるべき姿を中心に、原子力安全の確保に向けて克服すべき課題と事業者の今後の取り組みの方向性を明らかにしたい。

【プログラム】

- 13:00－13:10 開会挨拶・趣旨説明 五福明夫（岡山大学、日本原子力学会
ヒューマン・マシン・システム研究部会）
- 13:10－13:55 「事業者における安全に寄与する組織文化の醸成に向けた実践」
古濱 寛（東京電力）
事業者がこれまでに実施してきている安全文化醸成活動について、その実践や評価にどのように取り組んできたかをご紹介いただくとともに、GSR Part2の考え方などを踏まえた活動の改善や課題について話していただく。
- 13:55－14:40 「新検査制度における安全文化ガイド」
瀧田 雅美（原子力規制庁）
新検査制度において、原子力規制庁は従来と異なる「安全文化に関する審査・検査ガイド」を用意している。当該ガイドの意図と内容を紹介いただくとともに、事業者による今後の安全文化に関する取り組みを含め、規制組織としての、新検査制度における安全文化に係わる期待を話していただく。
- 14:40－15:25 「安全に寄与する組織文化のアセスメント」
越前 正浩（JANSI）
JANSIが実施してきた安全文化アセスメントの経験を通して、組織文化をシステミックに理解することの意義について、特にリーダーシップとの関連に注目して米国での事例も踏まえてお話しいただく。
- 15:25－15:40 休憩
- 15:40－17:20 パネルディスカッション「リーダーシップと安全文化」
コーディネータ：中條 武志（中央大学）
パネラー：越前 正浩（JANSI）
古濱 寛（東京電力）
大家 知子（関西電力）
小松原 明哲（早稲田大学）
木村 浩（パブリック・アウトリーチ）
- 17:20－17:30 閉会挨拶 木村 浩（パブリック・アウトリーチ、
日本原子力学会社会・環境部会）

<参考>

平成 19 年 3 月 8 日	第 1 回	品質マネジメント、ヒューマンファクター、社会技術（総論）
平成 19 年 9 月 12 日	第 2 回	不適合管理
平成 20 年 3 月 10 日	第 3 回	人間信頼性
平成 20 年 9 月 26 日	第 4 回	情報の共有・公開
平成 21 年 3 月 10 日	第 5 回	人材・技術マップ（総論）
平成 21 年 9 月 7 日	第 6 回	失敗から学ぶ
平成 22 年 3 月 8 日	第 7 回	教育・訓練
平成 22 年 9 月 6 日	第 8 回	コミュニケーション
平成 23 年 3 月 8 日	第 9 回	手順書・マニュアル
平成 23 年 9 月 14 日	第 10 回	ヒヤリ・ハットと危険予知
平成 24 年 3 月 12 日	第 11 回	安全の確保と信頼・理解の醸成（総論）
平成 24 年 10 月 13 日	第 12 回	エネルギー問題に関する国民的議論
平成 25 年 3 月 16 日	第 13 回	レジリエントな組織は QMS で作れるのか
平成 25 年 10 月 12 日	第 14 回	柳田邦男氏とともに「福島事故」を考える
平成 26 年 12 月 23 日	第 15 回	社会の安全・安心を確保するための行政による規制と事業者による自律的マネジメントのあり方
平成 27 年 12 月 25 日	第 16 回	事故調査の社会的役割と進め方
平成 28 年 12 月 23 日	第 17 回	信頼を得るための方法
平成 29 年 12 月 24 日	第 18 回	安全文化の醸成と全員参加の実現
平成 30 年 12 月 22 日	第 19 回	情報・知識の共有による安全・安心の確保